

2020.03.01

「パウロの語りたい福音」

ローマの信徒への手紙 1 章

1:2 この福音は、神が既に聖書の中で預言者を通して約束されたもので、

1:3 御子に関するものです。御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ、

1:4 聖なる霊によれば、死者の中からの復活によって力ある神の子と定められたのです。この方が、わたしたちの主イエス・キリストです。

1:5 わたしたちはこの方により、その御名を広めてすべての異邦人を信仰による従順へと導くために、恵みを受けて使徒とされました。

1:6 この異邦人の中に、イエス・キリストのものとなるように召されたあなたがたもいるのです

+++++

「神の福音のために選び出され」と自己紹介したパウロはその「福音」とは何かを簡単に紹介していません。詳細については本文の中にぎっしり語られているわけですが、ここでは中心部分だけ語られています。

福音とは

1) 預言者を通して約束されたもの

パウロの福音はパウロが考え出したものではなく、昔から旧約の中に預言者によって預言され、約束されていた内容だとパウロは言います。

いわゆる有能な人物が勝手に作り出したとか、悟りを開いて教え始めたものとは根本的に違うのです。昔から約束され、期待され、いつかきっと実現すると考えられていた福音、それを

パウロは大切な内容として教えています。

2) 御子に関するもの

その中心は「御子イエス・キリスト」についての福音です。イエス様がどういう方で、何をしてくださったのか、そのお方と自分たちの関係がどういうことになっているのか、そのお方がなぜ救い主なのか、なぜ、そのお方が私たちに必要なのか、そのお方を信じたらどうなるのか、そのお方の教える神とはどういう方か、その方の救いとはなんなのか、そういうことについて教えているのが「福音」です。そし

て福音の中心はイエス様です。

だから、本当に大切な手紙であり、ワクワクするような内容を含んでいる手紙です。イエス様と関わりを持っているなら、どうしても読むべき、理解すべき手紙なのです。

福音宣教に；パウロの使命

1) 御名を広め

パウロはユダヤ人たちに福音を伝えるというより、ユダヤ人以外の人たちに福音を伝えることに熱心でした。まさに、そのためにこそ、召されたパウロは自覚しています。

2) 異邦人を信仰による従順へと導く

そしてその福音を信じた人たちに求めていることは何かというと、それらの人たちが

「信仰による従順」の道を歩むようになるということです。

「イエス様を信じる、信頼する」と言うことは決してゴールではなく、出発点です。

信じた人たちが、つまり、私たちが、どう生きるべきなのか、どうあるべきかといえば「イエス様への従順」「神様の心に対して従順」に生きること、それを当たり前にする、喜びの自覚とともに生きることになります。

神様と心を通わせながら生きる道、それが「信仰の従順」の道なのです。

そのことのために「恵み」によって使徒とされたこれは、パウロの自覚であり、謙遜な自覚です。自分に能力があり、技量があったから使徒となったわけではないのです。

私たちに福音が届きました。その福音が書かれているのが聖書です。福音の計画、約束、そのための方法、それらが聖書には書かれているのです。

しかも、それを個人個人が受け取ることができるのです。その福音はあなたに、わたしに わかる形で、心に感じる形で、提供されています。

まさに、イエス様からの語りかけとして福音が描かれているのです。だからこそ聖書を読む必要があるのです。

祝福がありますように。